

岡山醫學會彙報

岡山醫學會通常會

同會は豫期の如く本月二十二日午後三時十分より岡山醫科大學附屬醫院臨牀講義室に於て開會す生沼主幹開會を告げ直ちに左の講演に移る。

第一席 鳥類に於ける網様質細胞と小腦との關係に就て

解剖學教室 桑原 弼君

哺乳動物に於ける網様質細胞より小腦に送行せる纖維は二三の研究者は存在すと云ひたりしが近來其纖維の存在は否定せらるるに至れり。

然るに演者は鳥類に於ける網様質細胞より小腦に至る纖維の存在を確めん爲、家鶏小腦各部の損傷後ニッスル氏法を以て之が檢索を行ひ、其結果網様質細胞が兩側性に縫線の附近及び之より稍々離れたる場所に於て、著明に小型及び中等大の細胞の變性せるを認めたり、又家鶏の延髓網様質部を損傷し、マルキー氏變性試験に依り該部より小腦内に送行せる神經纖維が變性せるを認めたり。

以上兩實驗に依り延髓網様質細胞の纖維は、一部は交叉性に一部は非交叉性に小腦内に送行せる事を證明せり。
結論

- 1) 延髓網様質細胞より小腦内に走行する纖維は一部は交叉性に一部は非交叉性なり。
- 2) 延髓網様質細胞より小腦に進入する纖維は小腦灰白核を除くの外、小腦内の何れの部分にも分布せらる。
- 3) 延髓網様質より小腦に進入せる纖維の量は、小腦體部最も多く、之に反し小腦中葉及び小腦後葉の上下兩端に近づくに従ひ其量を減ず。
- 4) 延髓網様質の上部……………より發する纖維は小腦蟲部の比較的上部に終止し而して下部……………より發する纖維は蟲部の下部……………に終止するもの如し。(自抄)

第二席 固定藥としての「ズルフォサリチール」酸に就て 第一回報告

解剖學教室 三宮 信彦君

演者は從來用ひらるる固定藥の中、有機化合物に屬するものは主として「メネン」誘導體にして其他の化合物殊に「ベンツォール」誘導體に至りては「ピクリン」酸を除くの外、未だ應用せられたるものなき今日、「ベンツォール」誘導體たる「ズルフォサリチール」酸を以て家兎の各臓器に就て固定試験を行ひ良好の成績を得たり、即ち該試験は固定藥として具備すべき理想的條件(1)迅速強大なる蛋白沈降藥たること。(2)その沈降蛋白は水に不溶解たること。(3)適度の擴散能力を有すること。(4)細胞成分及び其抱有物(「グリオゲン」、脂肪、「リポイド」、「チモゲン」顆粒等)を水に不溶解性に保つか或は少なくとも之に溶解性作用を呈せざること。(5)理化學的作用により細胞の造構を破壊し又は組織内に人工産物を形成せざること。(6)被固定材料が均等の硬度を保有すること。(7)良好なる染色性を有すること。(8)固定、包埋、截切の簡單容易なること等に對し殆ど全部良好なる成績を示し、且安價にして入手、保存に容易且便利にして、人畜に害なく多少潮解性を有するの他、時、日光、空氣により變化せらるることなきを以て今後優秀なる一固定藥として組織學上に應用し得べきものなるべしと切言せり。(自抄)

右終りて午後四時四十分閉會す。

岡山醫學會通常會

岡山醫學會通常會は五月二十日午後三時より岡山醫科大學附屬醫院臨牀講義室に開會す。